

びわこの東から

発行：湖東土木事務所
〒522-0071滋賀県彦根市元町4-1
TEL 0749-27-2254(管理調整課)
FAX 0749-23-3531
Email ha34150@pref.shiga.lg.jp

発行に当たり！今年度、組織目標による「見える化事業」の一環で情報誌の発行を再開します。土木の歴史を交え皆様に熱く伝えますのでどうぞご覧下さい。
7月号は **その時歴史は動く！への招待** ➡ **中山道高宮宿の無賃橋(犬上川)** を紹介しています。

(主)大津能登川長浜線(別名・巡礼街道)彦根市開出今町地先の道路改良の紹介

『道路が狭い！』



改良前

道路の幅が狭く、利用者にとって危険です。



改良中(工事中)

道路の拡幅、歩道の整備により安全確保を図ります！



改良前

改良後

彦根市内を南北に結ぶ離合困難な幹線道路において、車輛や歩行者の安全確保を図る工事を施工しています。

問題・課題

【自動車交通にとって】
自動車の交通量が非常に多い道路です。日交通量約9,000台
道路幅員が狭いため、**自動車同士のすれ違いが困難**です。

【沿道住民、自転車利用者、歩行者にとって】
沿道には人家が連担しており、小学校・中学校もありますが、歩道が設置されていません。
沿道住民、自転車、歩行者にとっては、**交通事故にあう危険性が高い**です。

目的

自動車**が安全・円滑に走行**できることを目指します！
沿道住民、自転車、歩行者が**安全に通行**できることを目指します！

内容

整備区間は、犬上川～南中学校(解消区間約700m)です。
車道部分の拡幅を行います。
道路の両側に歩道を設置します。歩道幅は4.5m
平成25年度の供用を目指しています。

効果

自動車の**安全・円滑な走行**を実現できます！
沿道住民、自転車、歩行者の**安全な通行**を実現できます！



事業位置図



管な河
理さ畔
しん林
てとを
い協地
ま働域
すしの
てみ

平成21年6月6日(土)に「愛知川右岸河畔林の会」の第8回イベントが開催され、彦根市本庄町地区の竹林整備を行いました。(竹林面積約1,700㎡)
愛知川右岸河畔林の会とは、地域住民の皆さんの力で愛知川の良好な河畔林づくりを実現するために平成19年3月10日に設立した団体です。
当日は湖東地域を中心に約100人の方々に参加を頂き、枯れた竹の除去作業で汗を流した後、タケノコと野草の天ぷらの試食会を行いました。今後もこうしたイベントを通して皆さんに河川に興味を持ってもらい、楽しみながら河畔林の整備に取り組んでいきたいと思っています。



道路愛護・河川愛護活動の湖東土木PR状況

★ 県管理として県が全てを担うことには無理があります。地域で出来ることは出来るだけ地域でお願いします。ご無理を云いますが、よろしくお願いします。…

5月16日(土)愛荘町内区長総代会にて総勢59名の前で土木事務所職員が道路・河川愛護活動補助について説明しました。…(写真)区長総代会

湖東土木管内では今年度、河川愛護は150団体、道路愛護は12団体の方たちにお世話になります。

彦根工業高校生インターンシップ受け入れ

湖東土木事務所へ将来の職場は絶対土木だ！…と、2名の都市工学専攻の生徒が現場実習を体験しました。

・7月6日・7日の二日間、とにかく現場を主に体験しての感想は下記のとおりでした。

- 土木は水との戦いなんですね。
- 私は必ずここへ(土木)帰ってきます。

危機管理

緊張感のある情報伝達訓練とは？！

湖東土木では第1回目の時間内大規模地震初動訓練を緊張感をもって終了しました。

7月14日(火)13:30分~所長の号令の元、緊張感を持って湖東土木職員は緊急輸送道路へそれぞれ散っていきました。各局ご協力ありがとうございました。訓練2回目PDCA (A)アクションは11月へ！

砂防事業は持続可能な地域づくりに貢献しています。

砂防事業の紹介

着手前



擁壁の延長 L= 138.5m

完了後



擁壁の高さ H= 5.0 m

い域も地、てか、元いら斜負ます大面担ます。喜ん安全を頂いなたりがだ地ら

このほど、多賀町小原地区において『急傾斜地崩壊対策工事』が完成しました。これによって、土砂崩壊による災害から住民の生命を保護し、家屋などの財産を守ることが出来ます。

特集・その時歴史は動く！

中山道高宮宿

中山道に架かる木造むちん橋（高宮橋）の思い出



左岸側上流では、むちんはし石標があり、往時を忍ぶことが出来ます。

右岸側上流に旅人の安全を祈願した鎮守様が祭られています。



高宮宿400年の記念の年に、70年前の記憶をたどりつつ、むちん橋にかかる思い出を語ろう。当時のこどもの頃の遊びは、円照寺の庭か犬上川周辺であった。その頃のむちん橋は今のようなコンクリートではなく、一抱えほどもある丸太の橋台と橋脚が組まれ、その上に橋板が並べられていた。橋の両袖には子供でも跨げる程の欄干があった。子どもたちはその欄干を乗り越えて、河原へ下りたり上りたりしたものであった。春から秋にかけては、魚取りや水泳などして楽しく過ごした思い出が残っている。架けられた橋の役目は、子どもながらに大変大きな役目があったと思っていた。人や物資の通行は町の活気のバロメーターであると感じていた。当時から、この橋は多くの人々が自転車や大八車・乳母車・リヤカー・荷馬車等が頻々に通っていた。夏には橋の上に浴衣姿の親子連れや涼む人が多く見られ賑わったものであった。11月のえびす講大売り出しには、近郊近在より買い物客が行き来し、両手に大きな買い物を抱えて夜遅くまで賑わっていた。当時の犬上川の水量は大雨の時には一気に多くなり、橋の上から長い柄の網で魚が取れたこともあったが、平生は今と同じく水かさは多くなかった。現在の花火は戦時中には中断されていたように思い、昭和25年に復活再開されたことを記憶している。当時も橋の上には多くの見物客で賑わっていたものだ。この橋も昭和7年にコンクリートに改修され、水に対して安心出来ることとなった。同時に中山道の土道を舗装道路にされたことは、大変画期的な仕事で高宮町の勢いを近郊に示した出来事として嬉しく思った。こうした思い出を語れることを喜ぶとともに、古き佳き時代を大切に現代に生かしていける街にしたいものと期待する。……………

これからは土木もハード面からソフト面へとシフトして行くようです。古き佳き時代を大切に、また地域の絆も大切にしていかなければならないと考えています。・・・事務局長

記事掲載にあたり、H14.11「記念誌」=高宮の軌跡=企画編集委員会 高宮公民館長様の承諾を得て掲載させて頂きました。ありがとうございました。

編集後記

湖東土木の職員は技術屋事務屋を問わず「何事もモチベーションを熱く高く」で仕事をしています。次回発行情報誌10月号を楽しみにご期待下さい。編集 事務局長

所長コメント

職員の「やる気」を育てること、また、H21スローガン「思いを繋いで支え合う」この気持ちを忘れず職務を遂行して欲しい。